

交通事故より深刻？農業の高齢者の事故



最近、高齢者の交通事故のニュースが世間を騒がせているような感じを受けないでしょうか？

「事故したときの記憶がない」「ブレーキとアクセルを踏み間違えた」など、不可解な見出しに首をかしげることもあるでしょう。

去年は、高齢者の交通事故の割合がこれまでに最も高く、交通事故死者数の65歳以上の割合が54.8%となっていました(*1)。世間からは「高齢化の弊害だ!」「対策を打たないと!」との非難の声が上がりました。

そういった交通事故の状況を踏まえた上で、農業の分野に目を遣ると、農業の事故が相当に異常だと感じます。

なぜなら、農作業事故の死亡者は、8割以上が高齢者(65歳以上)だからです(*2)。さらに、死亡者全体の4割は80歳以上なのです。

これには、**農業従事者の高齢化(平均年齢66.8歳)**が大きく影響しています(*2)。「農家で60代はまだまだ若手だ」とは、よく耳にするセリフです。

実際、農作業で体を動かしているためか、高齢者とよばれる年齢でも元気ハツラツとした方が農業には多くいます。

ただ、高齢化に伴い、体力・判断力が低下して、人為的なミスが増えることも事実です。さすがに、20~30代の時の自分と比較したら、衰えを感じざるを得ないでしょう。

「農業には定年がない」ということは素晴らしいことですが、「高齢化による事故リスク」と裏表の関係になってしまっは元も子もありません。

高齢者の事故対策は、交通安全同様に農作業安全の喫緊の課題です。次回コラムにて、高齢者の農作業事故防止に向けてできることを考えてみます。

参考資料

(*1) 警察庁調べ

(*2) 農林水産省調べ(平成26年の数値を参考にしています)